

科目	授業改善について、独自に工夫されていることについてお書きください。
L	なるべく興味関心を持つように、板書のための講義だけでなく、パワーポイントを用いた講義や、実際の細胞観察、簡単な演示実験を教室で行ったり、他者とのコミュニケーションをはかるためにグループディスカッションの時間を設けた。
L	レポートはすべて手書きのものを提出させている。それは、本からの情報にせよ、ネット情報にせよ、自分でまとめず不必要に長く説明をするような書き方が、これまで多く見られたためである。多くの情報を使うのはいいとして、レポートではそれを基に自分がまとめた情報や意見を書いてほしい。レポートとは、そのような訓練の場である。 教科書として指定した本の内容についてレポートを課す場合、小さなテーマだと、該当の部分しか読まない学生もいる(レポートの中身からすぐわかる)。本全体の内容を踏まえた上で書くよう、テーマを工夫する必要があると考えている。
L	レポートには、テーマとは別に(評価に関係しないと断って)、この授業の感想や意見を自由に書いてもらうようにしています。それを見て、授業の改善に役立っています。
L	コミュニケーションが取りやすいようにネットなどでの質問も受けつけている(本講義では今年の利用はまったくなかった)。教養科目なので少しでも興味をひくような、平易な内容を毎回の導入にしているつもりである。また、時事ネタも積極的にとりいれるようにしているが、そもそもニュースを見ていないようでもあるので、難しい。
L	自作の問題をプリントとしてほぼ毎回配布しました。
L	授業の方法としては、毎回パワーポイントによる説明を行った。したがってほとんど黒板を使用することがなかった。また時々、環境問題に関するビデオ(録画したテレビ番組)の視聴を行った。今後はもう少しそれを増やしたいと考えている。また教室でのインターネットを介した報道情報も取り入れた。これは前期にまして多く取り入れることができた。 授業における講義資料については、今年度からはじめて、学びネット上での資料を準備することとし、毎回授業開始の遅くとも前日朝までには、ネット上に掲載するよう努めた。全体ではA4で80~90ページの講義資料になった。この方式は今後も継続していく予定である。一番の課題は、受講者とのコミュニケーション(質疑、討論、コメント用紙、ネット等)の充実を図ることである。人数も50名近くになると討論も難しく感じている。質問については、最後にかならず「質問はありませんか?」と聞いてはいるが、反応はない。今後の課題である。
L	Ldの授業としては今回が初めてであり、このアンケート結果を基により良い授業となるよう考えていきたい。
L	学生からの授業に対する要望等を聞くようにしている。

L	<p>① 条件付きの作詩(行頭指定の7行詩)、② 寄せられた歌詞から厳選した一篇に異なる2つの曲が付いたものを比較し、「鑑賞の記録および批評シート」を作成し、集計結果を考察、③ 短い作曲(理科教育講座のCMソング)、④ 自由な作詩(テーマは「6月」)、⑤ 寄せられた歌詞から厳選した一篇に作曲、⑥ 授業を振り返っての感想</p> <p>以上、6点の提出物を課したが、欠席および未提出を含め、提出率は96.0%であり、合わせて275点にもおよぶ提出物それぞれに1点刻みで順位を出すような精細な評価を施したため、その作業には大変骨の折れる思いをした。次年度以降は課題の数を抑えなくては他の授業や業務に支障が出ると思う一方で、課題の数が多いほど詳細な評価の集積に裏打ちされた最終成績評価への信憑性が高まることも経験上明らかであり、なにより学生から寄せられる提出作品に意欲的なものが多いため、提出物の数を減らすことにはささかの躊躇もある。</p> <p>授業においては、さまざまな作曲技法を紹介した上で「作る→比較鑑賞する→批評する」という流れを複数回繰り返したのを経て、5つの歌が完成。それらを用いて音楽劇に仕立てるために、全員が理科という履修生を物理・化学・生物・地学の分野別に班分けをし、それぞれに発表に向けて打ち合わせや練習をさせるわけだが、個々の作品に対する評価だけでなく、この発表に至る過程における班内での個々のはたらきから発表の成果までも評価の対象としている。そのため、授業担当者は幾度も4つの班を巡回してはそれぞれの練習風景を見守り、必要に応じて助言を施すということを行った。この創作表現活動を班で行うことに意義を見出したとの旨のコメントは学生からも多く寄せられている。</p>
L	<p>授業時間に限らず、望む学生に対してはより深く指導するようにしている。</p>
L	<p>昨年に比べて実験などを追加するとともに、学生が興味を持てるような授業内容にしようと努力している。また、授業内容に関わる資格を取るなどした。</p>
L	<p>授業中のコメント用紙に意見を求めたり、授業後に直接学生の声を聞いたりしながら、改善できるところは改善し、授業の流れを考える工夫をした。また、今回のアンケート集計表を確認し、どこが至らなかったのかを検討しながら、授業内容及び授業構成、扱った作品や教科書、資料が適切であったかなど再度チェックして授業改善を心掛けている。</p>
L	<p>授業では、写真、地図、等を取り入れて作品をまとめたスライド資料を使用し、具体的に時代や舞台が理解できるように解説した。また、理解の定着度を確認するため、毎回課題プリント(五問程度の設問)に記述をして提出させた。学生とのコミュニケーションもこの用紙を介して行なったが、中にはこまめに連絡を取る学生もおり、返却を希望する学生にはコピーを配付した。レポート作成にあたっては、事前に書式、テーマ、提出期限、等の注意事項を記載したプリントを全員に配布した。</p> <p>スライドによる授業は、ただ見ているだけの一方通行になりがちのため、できるだけプリント等で記述作業をさせるようにしている。この作業により、学習意欲が高まり、問題点を整理する助けとなると思っているが、同時にノートを取るには、大変忙しい授業となるため、今後は、スライドの枚数を減らして、もう少しゆっくり授業を進めたいと思っている。</p>
L	<p>学生と可能な限り、コミュニケーションを図り、個別の内容についての理解や浸透度を意識している。その反応や意見を講義の内容や説明に随時取り入れるようにしている。</p>
L	<p>教員としてのわたしが重要視しているのは「学生に敬意を払う」ということである。実際、学生から学ぶことも多い。そういうときは学生を褒める。さらには教え込まない授業、問いを提示し、それについて皆で考える授業に心がけた。哲学の授業ではそのことが最も大切であると思っている。</p>
L	<p>先にもふれたように、来年度は授業の形式を全部変える予定で、これを一度やってみて、そのアンケート調査の結果などから、さらに改善を続けて行くつもりである。</p>
L	<p>毎回の授業の最後に課した授業内容に関連した小レポートあるいは授業の感想を書いてもらっている。</p>

L	異文化的なものとして学生たちの注目を引くようなテーマを考え出すことに最初、特に苦労している。祝祭日の過ごし方ひとつとっても日本とロシアでは大きく異なるが、そういったことについて触れるのにエピソードをいくつも用意していき、学生たちが興味を持ちながら聞き、なおかつ自文化の異質性にも思い至るように組み立てていくことは面白い作業でもありながら、難しかった。その都度その都度考えていかなければならない問題だと思う。
L	模索中。彼らにどうやって「自分の考え」を持たせるか。どうやって「自分の言葉」で表現させるか。
L	テーマの選択は大切であるため、ガイダンス時に受講生の興味・関心について、アンケートを実施している。
L	この授業は今回きりであるゆえ、工夫したことについて言及する。 <ul style="list-style-type: none"> ・文系の学生に対するトピック選び：微分積分を使わない数学で記述出来る身の回りにある出来事、現象を取り上げた。また、学生が食いつきそうなトピック、もしくは、毛嫌いしないトピックを選んだ。 ・また、使う用語も数学的専門用語を使う場合は、必ず分かりやすく、身近な言葉と関連させて数学用語の敷居を下げた。 ・数学では「定理」その後「証明」、すなわち、「こういうことが成り立つ」その後「なぜなら、・・・」という論理展開が好まれるが、まず手を動かしてどのような事柄が成り立つと思うか予想する、もしくは、どんな特徴があるかを見つけ出し、推測する作業をした後にそれらの予想、推測が正しいかを「確認」という順にした。実験数学と言われる、まさに、数学がいかんして生まれるのかを体現してもらう授業展開を行った。
L	座学によって習得した知識を、制作活動を通して実際に利用し、両者の繋がりを体感できるように心がけている。
L	現代的課題ということで、環境と健康に関わる、最近の学会等で収集した情報も含めてリアルな課題を提示している。 また、興味関心を持ってもらえるよう、身の回りの環境と健康の問題(シックスクール問題、水環境管理、アスベスト、暑熱寒冷環境)、本学の環境管理とその諸問題を教材として取り上げている。 授業感想、「楽しかった」「初めて知った」「初めて理解できた」「気になって、親に聞いてみた」「(帰省した時に)調べてみたい」「やってみよう」等を参考にし、「わからなかった」については次の授業で追加説明などを行う。
L	毎回出席の確認を兼ねて、学生には簡単なコメント(オススメの本や映画、他の班の発表の感想など)を提出してもらい、次の授業の時にその結果を集計して提示した(匿名)。特に読書感想など普段あまり人と話す機会がないようなことについて、こうした方法も用いながら互いの知識の共有がはかれたのではないかなと思われる。
L	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料による興味・関心の引き出し ・実際に楽器に触れたり作曲や演奏に体験・参加することによる感覚的な理解の促し ・歴史や他分野(他教科)との関連づけ ・ゆっくりとした話し方を心がけ、学生からの質問には丁寧に答える ・リアクション・ペーパーを通じた学生とのコミュニケーション
L	他の先生方と比べて、とりたてて独自の工夫というものはないと思うが、一方的な講義スタイルに陥らないよう、授業のなかには数回のグループワークや個人作業時間を設けて、学生に手や口を動かしてもらうという工夫は行った。もちろん、DVDを見せる回も複数あり、なるべく授業中に考える時間をつくってみた。